NIE実践報告

1．タイトル：「情報サロン」で新聞を読もう　～HAPPY NEWSにチャレンジ～

2．学校名

熊本県熊本市立桜木中学校

3．実践者名（代表者名）

宮本　俊子

4．学年

第2学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会科(中学2年生218人)

6．単元（本時の学習課題）名

「HAPPY NEWS」を探そう

7．目標（狙い）

・時事的な課題への関心を深める。
・新聞を隅々まで読む力を育てる。

8．評価の視点

・課題にあった内容の新聞を探すことができたか。
・選んだ理由、感想・意見を自分なりにまとめることができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

・本単元の内容は、課題解決をする能力を培う「課題を設けて行う学習」ととらえて、歴史的分野から地理的分野への移行期間に2時間実施したものである。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

・本単元の内容は、社会科の目標である「資料活用の技能・表現」「社会的な思考・判断」力を育成する課題研究である。
(第1次)
1.新聞記事の中から「HAPPY NEWS(心温まる記事・勇気を与えてくれるような記事)を探そう」 (30分)
2.記事を読みとり、切り抜いて、「新聞レポート用紙」に張ろう。(10分)
3.選んだ理由・感想・意見を書こう(10分)
(第2次)
1.完成した「新聞レポート」を班で交換して読んでみよう。(10分)
2.「HAPPY NEWS」の原稿に仕上げよう。(30分)
3.発表したい人は、みんなの前で発表してみよう。(10分)

11．児童・生徒の反応、感想・意見

日ごろから、新聞レポートを実施しているが、生徒の選ぶ内容は、3面記事が60%を占めている。今回のような「HAPPY NEWS」という課題限定をすることで、新聞の隅々まで読もうとする姿が多く見られた。

12．成果と課題

今回の取り組みは、全員で同じ課題に取り組み、その内容が「心温まる・勇気をもらう」という課題だったことで、自分の気持ちを揺さぶる記事を一生懸命に探す姿が多く見られた。また、意見交換をする場合もお互いに記事の深さに感動していた。「新聞記者の気持ちが伝わる記事だ」「どうしてこんな出来事に新聞記者の人は気づいたのだろう」といった、情報手段だけではなく新聞が伝える「感情」というものを実感したようだ。学力の差がなく取り組める課題でもあった。また、日ごろから「新聞(情報)は生きている」と言っていることも体感できた。